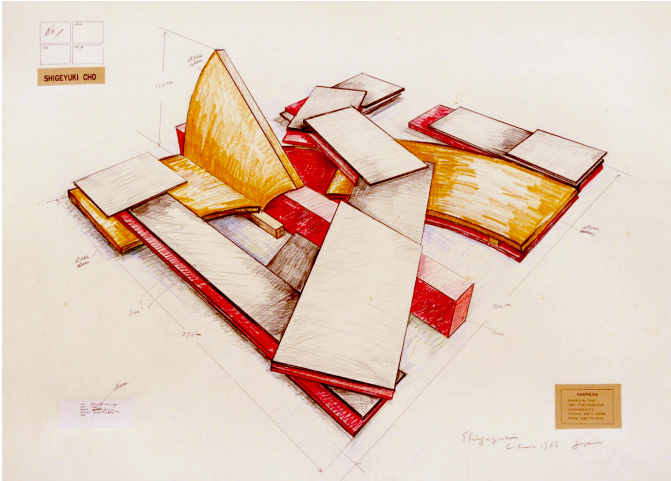
rin art association

長 重之
「視床」



2022.1.16(sun) ー 3.20(sun)

「視床 no.1」1983
紙、鉛筆、クレヨン、木炭　79×109 cm

この度、rin art association では長重之の展覧会「視床」を開催いたします。
視床は長が生涯を通して貫いたテーマである境界と領域を非常に色濃く反映するシリーズで長の代表作として知られています。
この展覧会では初期の鶏卵パックをコラージュした「視床」から、「視床」から発展した「測量士の壁」、「迫」などシリーズの展開を網羅するかたちでギャラリーの 3 フロアを使って展示をいたします。

長 重之（ちょう しげゆき）
1935 年 -2019 年　東京生まれ
1942 年父の故郷である足利に移り、1960 年代から地元のガス会社や病院に勤務しながら制作を始めます。
以来、「日常の深淵」、「物質の飽和」、「意識下の精神」という独自の洞察によって導かれた「境界と領域」、「物質の反乱」、「生体と彼方」といった明確なコンセプトに貫かれた作品を創作し、1968 年にはカンヴァス地に巨大なポケットを縫い付けた「ピックポケット 68」、次いで 1978 年に「視床 1」という極めてユニークな作品をシリーズで発表しました。
この 2 つのシリーズはイベント「ロードワーク」やパフォーマンス「アタッチメント」という身体そのものの行為を伴ったアクション・シリーズと並行して展開されました。
その後も「平・面・躰」、「リバーベッド」など一貫性のある作品を発表し、新作では日本最古の学校である足利学校に縁のある論語をテーマにした作品を創作しました。
また、1960 年代後半よりハンディキャップのある人々の作品に注目し展覧会として企画、コラボレーション作品とするなどの活動を続けました。きっかけは長女の誕生で、ダウン症と診断されたこと。この活動は長重之の美術家としての重要な部分を占めました。
2019 年 7 月他界。

［水ー日］11：00 - 19：00 ［月ー火］休廊

contact
rin art association
370-0044　群馬県高崎市岩押町 5-24
t : 0273-87-0195　e : contact@rinartassociation　w : http://rinartassociation.com